



2020. 11. 9 木沢海岸で撮影

テッポウエビ

(テッポウエビ科)

日本を含む東アジアの干潟^{ひがた}に生息する、数センチほどの小型のエビです。

片方のはさみが太いのが特徴^{とくちょう}で、捕まえようとすると「バチン」と音を鳴らして威嚇^{いかく}します。水中で音を出すためには、非常に大きなエネルギーが必要です。このエネルギーで、はさみの周りの水温は瞬時^{しゅんじ}に 4000℃以上となり、衝撃波^{しょうげきは}が発生します。この衝撃波を利用して、小型の生物を一瞬^{きせつ}で気絶させて捕まえます。